板橋大禅師初の訪タイ

釈迦牟尼佛正伝の袈裟の世界への普及を目的に活動を行っている「釈迦牟尼佛正伝御袈裟普及協会」では、「タイ国仏教交流会」として、六月二十五から二十八日までタイを訪問した。

今回のタイ訪問では、大本山總持寺貫首板橋興宗大禅師猊下が直々にタイを訪れ、タイの仏教会に袈裟を贈呈した。板橋禅師のタイへの訪問は初めて。これは山形の井筒屋の発願に、留学僧の交流をはじめ、さまざまな分野でタイの仏教界との交わりの深い善光寺の黒田武志住職の全面的なバックアップがあって実現した。

贈呈式は二十六日に行われ、その後、タイの仏教会と交流が持たれた。なお、今回の訪問には、總持寺からは阿部、三村両副監院をはじめ、五十名を超える随喜も訪タイ。

今後、ますます深められる總持寺とタイの仏教交流に期待を寄せる声も多い。

ニュース・アラカルト

青少年教化の場

京都府宗務所（村上俊鳳宗務所長）は七月二十五日と二十六日の一泊二日で、青少年研修会「夏休み子供、比叡山延暦寺研修会―道元禅師得度霊跡・琵琶湖博物館見学の旅―」及び現職研修会を実施した。若手僧侶に青少年教化の場を提供するのが一つの目的で、合同行事となった。したがって初日の開講式・天台声明・野外散策、二日目の坐禅・朝課・青少年向法話（講師＝クリス・スタブラキス氏、辰巳款道氏）・閉講式は共通行事。現職研修会の独自行事は講座や人権学習など。同講座は横浜・善光寺の黒田武志住職を講師に迎え「寺院経営について」のテーマで行われた。同宗務所と黒田住職は昨年

末の京都・清水寺に建立された瑩山禅師の碑が縁で交流が深まった経緯がある。人権学習は京都府舞鶴市・永春寺の諏訪龍天住職が講師をつとめた。青少年研修会については、京都府青少年教化協議会（野原泰見理事長）が企画運営を担当、小学校高学年から中学三年生までが対象の行事で、今年度は食事作法や坐禅体験、道元禅師得度霊跡への参拝など盛りだくさんの内容だった。

ドイツ普門寺にて講演

黒田住職は八月三日、四日にドイツのアイゼンブッフ禅センター（大悲山普門寺）で開かれた「DOGEN　二〇〇二　高祖道元禅師七五〇回大遠忌記念ゼミナール」に講師として招かれ、「道元思想から見た現代社会へのアプローチ」と題して講演し、パネルディスカッションに参加した。

普門寺は平成八年に禅センターとして活動を開始し、開山に永平寺の宮崎奕保貫首を拝請。主監の中川正寿氏は慶応大学哲学科の出身で、ドイツに渡り摂心指導と道元禅の普及に身を挺している。

黒田住職は「修証義」を通して道元禅師の教えを話し、自らの修行遍歴と育英事業の意義を語った。

黒田住職を驚かせたのは、パネルディスカッションでドイツ人が「修証義」第十七節を読み上げ、「これは一体何を言っているのか」と質問したことだった。黒田住職は「今ここにいるドイツ人が求めているのは学問としての修証義ではない。実践の書としての修証義の世界を知りたいのだ」と直感し、「如実知見、欲望や固定観念を捨てて、その姿をありのままに見ることこそが悟りであり、発菩提心である」と答え、満

場の拍手を浴びた。

世界は仏教に何かを求めている。仏教は何を世界に与えることができるだろうか。

黒田住職は「曹洞宗の僧侶は道元禅師さまから素晴らしい教えをいただいている。あとは修証義に書かれていることを限りなく実践することだ。七百五十回大遠忌に際して私たちが確認すべきことはこのことであり、ただ遠くを慮るだけではなく、そこに道元さまがいますが如く、そのお心をいただき、理に従い、ただ実践する。高祖さまからその促しを受けているのだと心底知ることだ」と述べた。

タイで禅を語る

横浜市の善光寺住職黒田武志氏は十月十三日にタイ・バンコク郊外にあるブッダモントンの国際会議場で日本の禅についてスピーチした。

ニュース・アラカルト

世界仏教徒青年連盟（WFBY）の招請によるもので、当日はタイ国内の大学生や教師、僧侶らが集った。

上座部仏教のタイで日本の僧侶を招いて日本仏教の話を聞くのは極めて異例のことである。これは黒田住職が三十五年前にタイのワットパクナムで安居修行して以来、積み重ねてきた交流と信頼関係の裏づけがあってのことだが、それだけではないと思われる。

タイ仏教が日本の仏教に関心を寄せる背景には、タイ仏教の現実があり、大乗仏教から何ものかを学ぼうとする意思が働いているとみられる。

伊勢神宮まがたま祭に参詣

伊勢神宮勾玉（まがたま）会が「伊勢神宮まがたま祭」を開催してから今年で四回目を迎えた。今年の「ま

がたま祭」は日韓共催のワールドカップの成功を受け、日本と韓国しいてはアジアから平和へのメッセージを発信していくことをテーマに、外宮勾玉池で「世界恒久平和祈願・韓国伝統舞踊『祝願舞（ツクオンム）』」が金靖鸞韓国舞踏研究所によって奉納された。

十一月九日十日の二日間、横浜善光寺からも黒田老師夫婦が参列。広い心で世界の平和を祈った。

新幹線と貸切バスによる一泊二日の旅には、なかなか機会の少ない伊勢神宮の特別参拝（御垣内参拝）も含まれ、改めて世界平和を願う心が感じられたようだ。また、深秋の伊勢路の景色や外宮前で開催された「楽市」など、旅の気分を十分に味わえた二日間となった。

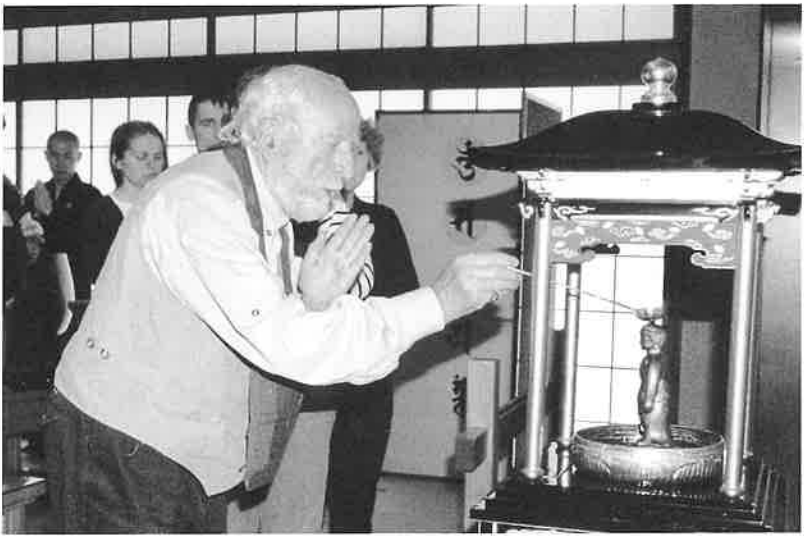
ニュース・アラカルト

禅が一番の魅力

鎌倉の大仏前で記念撮影、黒田方丈の向かって右がバシュルース浄信師

山梨県大月市初狩の瑞岳院で四月一日から七日までフランスのバシュルース浄信師を始め、その門弟二十名が摂心を行った。滞在期間は十日間で摂心終了後は横浜善光寺を訪問し黒田方丈の案内で鎌倉の報国寺、杉本寺、円覚寺、鶴岡八幡宮、長谷観音を訪れ十日に帰国した。バシュルース浄信師は横浜善光寺留学僧育英会の第四回（昭和六十三年度）留学僧で元はフランスのジャーナリストとして活躍した。

ニュース・アラカルト



お釈迦様に甘茶をかける浄信師の門弟